［有明抄］（2018.6.1）

年　　組（氏名）

○歴史的仮名遣い（左）を現代仮名遣い（右）にしてみよう。

ゆへ		かをり	
けふ		あはれ	
衣がへ		ゐど	
いふ		てふ	

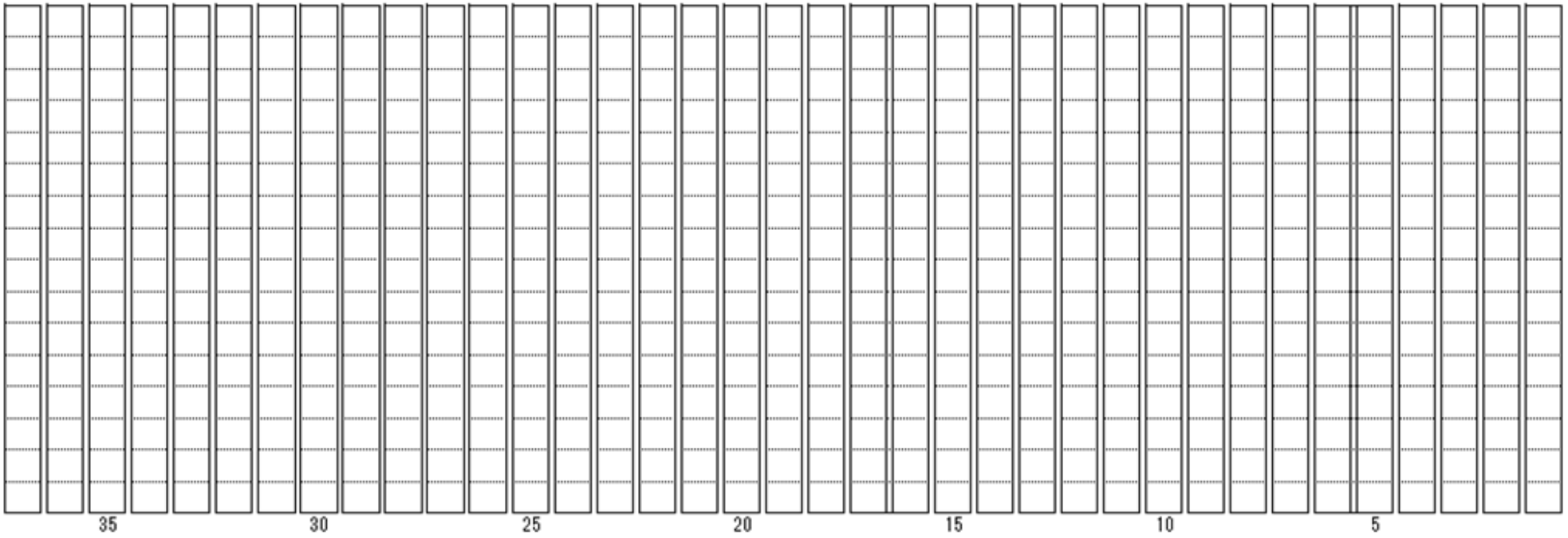
＊この他にも調べておこう。

○夏の季語を調べて、今の時期を俳句に詠んでみよう。

○今日の有明抄にタイトルをつけてみよう。

新聞を通して地域の歴史を学ぼう！

さが維新塾

有明抄

「衣替え」の季節である。その昔、宮中では中国の習慣にならって4月1日から夏装束、10月1日から冬装束に着替えた◆四季の違いがはっきりしている日本。それは夏の季語ともなり、広く庶民の中でも衣替えの習慣があったようだ。江戸の自然や気候などを記した『続江戸砂子』の四月朔日（1日）の項に「更衣　今日より五月四日まで袷を着るゆへ、けふを衣がへといふ。けふより九月八日まで足袋をはかず」とある◆日本の着物は大別して「単」「袷」「綿入れ」。それぞれ季節に応じて着替えた。「単」は麻や木綿など一枚の布で仕立てた、涼しさを感じさせる夏盛りの着物。中でも特に生糸で織りあげ、透けるように薄いものを「絽」「紗」といって重宝した。「袷」は裏地を付けた着物。表地と裏地の柄を工夫しておしゃれを演出したのである◆明治以降、制服を決めていた官庁や銀行などが4月1日ではなく6月1日から一斉に夏服に。季節と密接な衣替えだが、そう言えば第2次オイルショックの後の1979年、時の政権が省エネ服装を推奨し、〝半袖の背広〟なるものが登場したこともあった◆そして、ここ10年余は、もっぱら冷房節約の軽装キャンペーンとして「クールビズ」が定着している。「任重く心軽しや衣替」（高浜虚子）。装いは季節より時代とともに…。（賢）